

インターネット上での 個人特定の危険性について

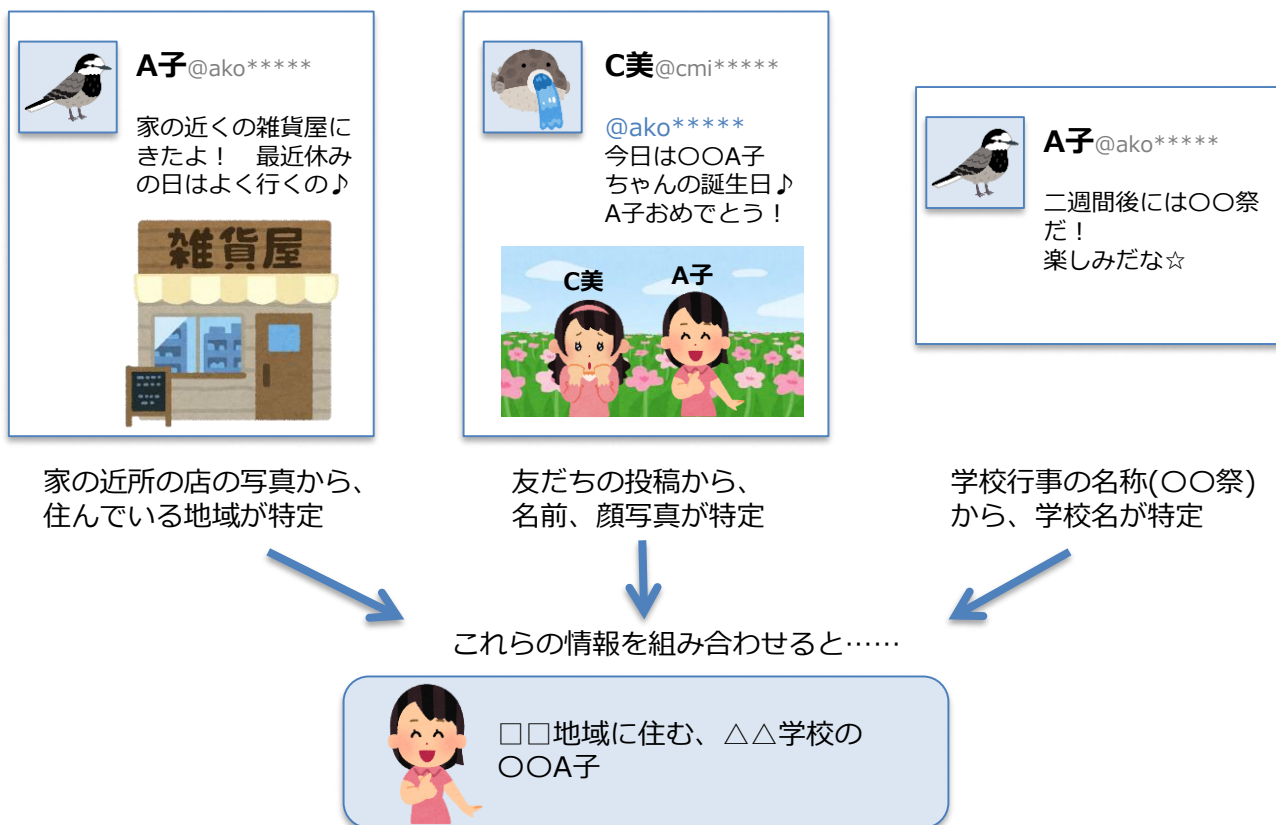
いじめ防止対策等推進事業(京都府教育委員会)

インターネット上では、SNSなどへの書き込みから個人を特定されることがあります。

個人を特定される可能性があるのは、SNSのプロフィール欄などに詳細な個人情報をのせていた場合だけではなく、インターネット上の断片的な情報を組み合わせることで、個人特定されることもあります。「個人情報をのせないように気をつけているから大丈夫」と子どもたちが思っている、絶対に安心できるとは限らないのです。

断片的な情報から個人特定された例

インターネット上の断片的な情報から個人を特定されたケースには、どのようなものがあるのでしょうか。ここでひとつ例を紹介したいと思います。



このように、詳細な個人情報をのせていなくても、インターネット上に掲載されている断片的な情報を組み合わせることで、個人が特定されるケースもあります。

自身で確認する習慣を

個人を特定されると、なりすましやつきまといの被害にあったり、万が一不適切な投稿をした際に、個人情報を拡散されたりする可能性があります。インターネットに投稿する際は、自分や友だちの個人情報につながるものが含まれていないか、必ず確認する習慣をつけるよう、子どもたちに指導していくことが大切です。